現場追跡調査で長期健全度を証明

ビックリート製品協会

ビックリート製品協会（会長＝大川内稔・日本ヒューム社長）は、ビックリート（下水道用耐食性コンクリート）製品の現場追跡調査結果を公表した。それによると対象12現場（供用年数5年～21年）のうち、11現場で健全な状態ということが確認された。残り1つ、供用19年を経過した現場では、コンクリート表面に荒れた状態が確認されたものの、供用状態には問題のない軽度のものであった。また、普通コンクリートの硫黄侵入速度の平均値に比べて、ビックリート製品は約16分の1というレベルになっており、優れた腐食抑制効果が確認された。

調査は供用中のマンホール内面、下水道管内面、コアの採取を対象に行った。全国の6地区（北

海道、東日本、東海、関西、中四国、九州）ごとに2現場を選定。調査項目は▽気相部の平均硫化水素濃度と温度の計測▽製品表面の外観調査▽腐食深さおよび硫黄侵入深さの測定―とした。このうち、気相部の硫化水素濃度測定では最大値21ppm、最小値0ppm、平均値0・2ppmという結果が出た。

ビックリート製品は開発から25年が経過し、平成29年9月の累計出荷実績は20万269トに達している。そこで腐食抑制に対する実効性や、長期間にわたる健全度を確認するため、調査を行った。同協会の担当者は「調査により下水道施設のライフサイクルコストに対して有効との裏付けが得られた。次世代のインフラ整備に有効ということを証明するために、さらに調査を実施していきたい」とコメントしている。

水道産業新聞

2019年（平成31年）3月25日（月曜日）